

【第2回釜石市中学校部活動地域移行推進協議会】

(1) 説明

◇ワーキンググループの意見を踏まえた地域移行の先行実施についての提案

- ①合同部活動について
- ②先行実施について
- ③自校に部活動がなくても他校の活動に参加することを認めることについて
- ④文化部の受け皿について

(2) 協議（主な意見を整理したもの）

- ・①については、中総体後の時期を検討。②③については、各種機関と協議の上、早め実施できるようにしていく。
- ・①について、平日は各学校で行い、休日は合同となると顧問の方針の違いによる擦り合わせが必要になってくる。完全な地域移行実施になるまでに、さまざまな協議が必要になってくる。
- ・①の練習場所については、当該校で話し合いながら場所については、検討していく必要がある。人数が少なく、普段個人でしかできないことも、集まることでゲーム形式などもできる良さもある。練習会の意味について、周知が必要。
- ・先生方の負担軽減のためには、②が鍵となる。ここに力を入れていかなければ、地域移行は難しい。
- ・今は、大会参加と結び付けて考えてしまうが、将来的に考えると中総体、新人戦と別に考えて地域移行していく必要がある。地域の中で子供たちをどのように育てていくのかということを前提としていかなければならない。
 - ・②については、各校の決まり（休養日）を守るなど、決められた範囲の中で活動しているという条件で、団体登録していただいて、地域移行の受け皿としてやってもらうように働きかけていく。市内の競技でもいくつかの団体が出てくるかもしれない。一つにまとめるということは、現状では難しい。
 - ・ラグビーについては、中総体が団体での出場を許可されていない。しかし、ラグビーについては、市内で指導者がいるので、ラグビーをやりたい子たちの受け皿として検討してもいいのではないか。
 - ・文科省としては、最終的に学校は部活動を手放すことを考えている。そのときに、学校は、何で子供たちを育てていくのかを考えていかなければならない。子供たちがやりたいことを、地域の中でやれるように、地域の体制を整えていかなければならない。
- ・地域移行の完全実施、働き方改革のためには、当分の間、先生たちが関わらなければならない。その覚悟が必要になる。
- ・③については、新1年生を考えている。2, 3年生については、ニーズを把握しながら

検討していく。

- ・③については、いろいろな競技のニーズも出てくるが、初年度なので、まずは提案した協議で実施しながら、成果と課題を把握していく。

- ・①について、各校で大会参加などもあると思うので、時期や回数については、協議が必要になる。ガイドラインに沿っての活動としていく。

- ・④については、土日に文化活動を行いたい子たちのために、さまざまな情報を提供していくことが可能。各公民館などで実施している団体もある。

- ・吹奏楽に関しては、吹奏楽連盟への加入などのしぼりがある。

- ・楽器をやりたいけれど、部活ではやりたくない子たちを、市民楽団で受け入れている。基本的には平日の夜。ハラスメント案件等についても、慎重にやっていかなければならない。今後、地域移行となると、学校、保護者との協議が必要。

- ・地域移行となると、保険加入が必要となる。送迎の負担など、保護者にどれくらい求めるのかも、各市町村でも苦慮している。

- ・将来的に部活動がなくなると、それでいいのかとも思う。部活動として得られるもので、大きな成長ができていることもある。所属しない子が増えることで、そこが心配。

- ・受け皿になってくれるところを増やすのが課題。無理だけれども、こうすれば可能性があるということを前向きに考えていかなければならない。

- ・アンケートを見ると、保護者の多くは地域移行に賛成している。しかし、保護者にも負担があるということを理解してもらわなければならない。子供がやりたいと言っても、家計の問題や、送り迎え、さまざまなストレスなど考えられる。保護者に対しても、今後周知していく。

- ・中学校でのスポーツがゴールではない。競技に関わって楽しいなと思えるようにしていかなければならない。その先に大会がある。合同にしたことで、その協議が嫌にならないようにして欲しい。

- ・保護者の立場としては、子供がやりたいというのであれば、ある程度の負担は仕方ないと腹を決めているところはある。保護者同士の理解が必要になるので、そこは顧問の先生にもお願いしないと。

- ・今回の提案が実現すれば、子供たちの選択肢が増える。生涯スポーツにもつながるのでいいと思う。自分の好きなことを伸ばしていきたい、楽しんでいくということを考えると、中体連、中文連という組織も変わっていかなければならない。

- ・これまでやってきたことを大きく変える改革には、紆余曲折があるだろう。できることから、順次無理なくやっていくのがいいのではないか。

- ・学校にとっての部活動は、生徒を育てる有効な手段。システムが変わることで、課題もたくさんある。何もしない子が出てくるということも考えられる。ケアが必要になってくる。

- ・やってみながらどうだったかということの一つ一つ精査していく必要がある。

・今回、具体的な提案が出てきた。今ある活動をなくさないために、お金がなるべくかからないように考えていかなければならない。地域だけではなく、教育者の力が必要。みんなで一緒にやっっていこう。

・釜石から出ていくのは防ぎたい。どこにいてもプロになれる。ここでみんなでやっっていこうよと。みんなを拾えるように、これを一步として進めていく。

・やってみないとわからない。来年できることをやってみる。そこで課題が出てくる。いろんな情報を集めながら、みんなでできることをやっっていく。地域で子どもを育てるという原点。バックアップ体制を保護者とともにつくっていく。中学校時代に何かに打ち込んだ。といういい思い出を。友達みつけて。人間関係ギシギシ、世の中にいろんな人がいるんだということを子どもたちが知る。他校と交流することは大事。急がないでいきましょう。